

いうと、「近代につくられたわれわれが日常的に使っている身近な建造物」と理解してもいいのではないかと。そういったものが文化財になること自体が非常に珍しく、文化財行政もだんだんと変わってきたと思います。私もそれがそれこそ20年以上前に取り組んだときは、個人的には30年以上前になるのですが、そのときは「一体何でそんなものを調べるの？」と聞かれたこともあります。

今回、1回目の『愛媛温故紀行』と文化庁の報告書がどう違うのかというと、例えば目的です。最初の『愛媛温故紀行』では、県の教育委員会ではなく、県民環境部で調査しました。1回目のねらいは、近代化遺産の発掘ということがありますが、県民に知ってもらい、最終的にはまちづくりに使いたいということがありました。内容は見て楽しく、読みやすいものにしようということで、写真はオールカラーで、今回の近代化遺産調査の報告書よりは写真はきれいですし、文章は読みやすくなっています。

2回目の方は、学術的な調査になっています。文化庁指定の調査ですから、規定のフォーマットがあります。ねらいは、将来の文化財指定や登録を目指すということを中心に大きな目的としているものです。形としては、図面を入れた報告書でないといけないことから、今回、図面がないものは、図面起こしをしました。そういう意味では、各委員の先生方には図面化に際し、非常にご苦勞をかけてまとめたものです。

今回の近代化遺産調査報告書の普及版の方は、またこれもいろいろ苦勞されたと思うのですが、ルート別にちゃんと辿れるように紹介されています。簡潔にまとめられた非常によい普及版ができたと思います。

『愛媛温故紀行』と今回とは基本的に同じメンバーでやっているのですが、同じ調査を二度やるのも能がないので、少しオリジナリティを入れようと相談して、2つの目標を立てました。何かというと、報告書の内容は「遺産と産業との関わりに着目しよう」、産業に主眼を置きながらみていこうということです。産業というのは日々の生活のなりわいに関わってくるものですから、私みたいな外から来た者にとっては、構造物とか建物について学術的なことはいえるのですが、日常生活や地域との関わりは分からないわけです。そういう内容は、地元の研究者ないしは調査員の方に協力していただき、学術的な面は私どもがやるという形で、特に私は土木が中心だったのですが、そのような書き方や内容面での工夫が

ありました。その意味では、普通の近代化遺産調査報告書とは違ったものができたのではないかなと思っています。そのため、目次構成も工夫してあります。

もうひとつは、結構大変だったと思うのですが、「10年前の調査との比較」をしました。どういったものが新しく発掘され、ないしは発見されたか、また、どういったものがなくなってしまったのか、ということです。解体物件はこの10年間に132件ありました。それに対して新しく見つかったものは90件。プラスマイナス42件減ってしまったわけです。またこの10年の間に年間13件くらい、毎月1件以上、物件がなくなっていったことが分かるかと思っています。

「文化財」というと、みなさん大切にしなければいけないとか、かつては文化財行政の「寄るな・触るな・あちへ行け」ということで、保存が中心であり、なかなか触ること、利用することも不可能だったのですが、ここ20年くらいで大分変わってきました。「活用しながら保存していこう」ということで、日常生活の中で使いながら文化財を維持管理し、守っていく。博物館的な保存ですと、ものの使い方がわかりませんが、生活の中で利用していれば使い方がわかるので、文化財のあり方として最善の方法ではないかと思っています。

今回の近代化遺産調査報告書でどんなことが分かったのか、だいたい傾向だけを紹介しておきます。「産業面を主眼におく」ということで、産業を大項目と中項目とに分け、中項目30の項目で近代化遺産を調べてみると次のような順番になります。「住宅」「鉱業」「道路・橋梁」「軍事・戦時」が結構多いわけです。10位までで7割方占めているわけです。ではこの順位にどういった意味があるのかというと、愛媛県では「鉱業」が1割ちょっとを占め、「軍事・戦時」も89件あり、これを他県の近代化遺産調査報告書と比べてとき、愛媛県の特徴が出ていることがわかります。詳細はまた後で説明できると思います。

市町別の大項目産業別遺産数というのがありますが、これをひとつひとつ見ていると大変なので、大雑把に見ますと、例えば、この縦軸で見ますと市町村別に遺産数が出ています。数として一番多いのは今治市で19.4%、約2割です。次に多いのが松山市、3番目が新居浜市ということになるのですが、地域別の遺産数は東予と中予に多いということがわかります。

産業別の大分類で見ますと、一番多いのが「生活文化」